

投稿論文を書く

国際教育交流センター教授 庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. はじめに

- 論文とは何か？
- →それまで知られていなかった事実を、（原則として）書きことばによって、世間（世界）に知らせるための手段
- 論文で求められること
- それまで知られていなかった事実を →オリジナリティー
- 書きことばによって →文体、フォーマット
- 世間（世界）に知らせる →公開性

2. 投稿論文とは何か

- 修士論文、博士論文と投稿論文の違い

- < 修士論文、博士論文 >

- < 投稿論文 >

- 【共通点】

- ・ オリジナリティーが必要
- ・ 研究史上の位置づけが必要

- 【相違点】

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">• ・ 論文全体としての論点が必要• ・ 長さの制限なし• ・ 包括的• ・ 研究史のまとめが必要• ・ (原則として) 非公開• ・ 内部査読、 (一部) 外部査読 | <ul style="list-style-type: none">• 単独の論文として自己充足する• 長さの制限が厳しい• 個別的 (1つの問題に絞る)• 研究史のまとめは (基本的に) 不要• 公開• 完全に外部査読 |
|--|---|

2. 投稿論文の特徴

- 1-1. オリジナリティーが必要
- 1-2. 研究史上の位置づけが必要
- 2-1. 単独の論文として自己充足する
- 2-2. 長さの制限が厳しい
- 2-3. 個別的 (1つの問題に絞る)
- 2-4. 研究史のまとめは (基本的に) 不要
- 2-5. 公開
- 2-6. 完全に外部査読

2. 投稿論文を書くことの必要性

- 投稿論文は次の特徴を持つ
- 2-5. 公開
- 2-6. 完全に外部査読（二重の匿名性）
- →「井の中の蛙（かわず）」にならないためにも投稿論文を書くことは重要

3. 投稿論文の特徴から見た投稿論文の書き方 (1)

- 1-1. オリジナリティーが必要
- →論文の前提条件
- →「オリジナル」かどうかは、他の論文と比べて初めてわかる
- →先行研究の言及の仕方

3. 投稿論文の特徴から見た投稿論文の書き方 (2)

- 2-1. 単独の論文として自己充足する
- 2-2. 長さの制限が厳しい
- 2-3. 個別的 (1つの問題に絞る)
- → 投稿論文では自分が言いたいことを絞り込んで論じた方がよい
- → 「この論文のオリジナリティーはこれ」と言えるものを、まず自分の中でしっかり把握してから論文を書く

3. 投稿論文の特徴から見た投稿論文の書き方 (3)

- 1-2. 研究史上の位置づけが必要
- 2-4. 研究史のまとめは（基本的に）不要
- →研究史の言及は最低限に留め、自分が論じたいことを述べる

4. 投稿論文の書き方 (1) ~ (3) より

- 先行研究の言及の仕方
- 「この論文のオリジナリティーはこれ」と言えるものを、まず自分の中でしっかり把握してから論文を書く
- 研究史の言及は最低限に留め、自分が論じたいことを述べる
- → 「結論」をはっきりさせる
- → 「結論」が「オリジナル」であることを先行研究を使うなどしながら明らかにする
- → 「結論」が論理的に導かれるような文章展開にする

5. 投稿論文の書き方の例

- 文法系の論文の場合
 - 1. 新しい文法現象の発見
 - 2. 関連する先行研究の言及
 - 3. その現象が生じる環境についての考察
 - 4. その現象に関する一般化
 - 5. 4が「オリジナル」であることの論証（先行研究との比較）
 - 6. 4が生じる理由

5. 投稿論文の書き方の例

- 文法系の論文の場合 (庵1997)
- 1. 新しい文法現象の発見
- (1) 昔々おばあさんがいました。ある日おばあさん {○は／??が} 川に洗濯に行きました。
- (2) 彼は病気知らずが自慢だった。その彼 {??は／○が} 急病で亡くなった。
- 2. 関連する先行研究の言及
- 3. その現象が生じる環境についての考察
- (3) 名詞が繰り返される、名詞は固有名詞が多い、「その」がつくことが多い
- 4. その現象に関する一般化
- (4) 固有名詞が繰り返され、先行文脈とその文の間に食い違いがある
 - →固有名詞に「その」がつき、「その」が必須 (この現象が起こる環境)
- 5. 4が「オリジナル」であることの論証 (先行研究との比較)
- 6. 4が生じる理由
- (5) テキスト的意味、新情報

5. 投稿論文の書き方の例

• 文法系の論文の場合（庵1997）

- (1) 昔々おばあさんがいました。ある日おばあさん {○は／??が} 川に洗濯に行きました。（**それまでの一般化**）
- (2) 彼は病気知らずが自慢だった。その彼 {??は／○が} 急病で亡くなった。（**(1) では説明できない例の発見**）
- (3) 名詞が繰り返される、名詞は固有名詞が多い、「その」がつくことが多い（**(2) と同様の例を集めて考える**）
- (4) 固有名詞が繰り返され、先行文脈とその文の間に食い違いがある
→ 固有名詞に「その」がつき、「その」が必須、先行文脈とその文の間に食い違いがある（**この現象に関する一般化**）
- (5) テキスト的意味、新情報（**この現象が存在する理由**）

5. 投稿論文の書き方の例

- 文法系の論文の場合 (庵1997)

- (2) 彼は病気知らずが自慢だった。その彼 {??は／○が} 急病で亡くなった。(それまでの一般化では説明できない例の発見)
- (3) 名詞が繰り返される、名詞は固有名詞が多い、「その」がつくことが多い((2) と同様の例を集めて考える)
- (4) 固有名詞が繰り返され、先行文脈とその文の間に食い違いがある
 - →固有名詞に「その」がつき、「その」が必須、先行文脈とその文の間に食い違いがある(この現象に関する一般化)
- (5) テキスト的意味、新情報(この現象が存在する理由)
- →まず、重要なのは(2)のような例を見つけることと、次に、(3)(4)のような一般化を考えること

5. 再び投稿論文の書き方

- **まず重要なのは、**
- 語学系の場合は、現象の発見
- 調査系の場合は、適切な実験計画、調査計画を立てること
- **次に重要なのは、**
- 語学系の場合は、類例を集めて一般化すること
- 調査系の場合は、適切な統計的知識などに基づく分析
- (←分析の仕方を考えた実験／調査計画を！)
- **最後に、可能なら、**
- その現象はなぜ生じるのかについての考察

6. 査読者の立場から

- 査読したくなくなる論文
- 1. 研究史が延々と続く
 - →読みたいのは「あなたの考え」
- 2. 投稿先を間違えている
 - →この雑誌にこの論文を投稿して何の意味があるの？
- 3. 誤字・誤植が多い
 - →第三者の目を通していない論文が通る可能性は非常に少ない

6. 査読者の立場から

- 投稿は学会員の権利
- →投稿は大いに歓迎
- →しかし、十分に練った（考えた）内容でないと、次にコメントを生かすことができない
- ←査読者に投稿者の論文の校正をさせてはいけない
- ←査読は完全にボランティア
- →投稿者が全力を尽くせば（そのことが査読者に伝われば）、採用する方向でのコメントが得られる（「修正再査読」）

7. まとめ

- 投稿論文は、完全に外部査読である点において、修士論文や博士論文とは異なる性格を持つ
- 投稿は学会員の権利だが、自分の中で完全と思えるものを投稿しないと、次につながらない
- 投稿論文の場合、現象の発見（語学系の場合）が重要で、それに基づいて、論理的に結論に至る書き方を目指す
- 形式的なミスを避けるためにも、テンプレートを使用し、第三者に読んでもらってから投稿するようにしてほしい

参考文献

- 庵功雄（1997）「「は」と「が」の選択に関わる一要因 定情報名詞句のマーカ―の選択要因との相関からの考察」『国語学』188
<https://bibdb.ninjal.ac.jp/SJL/getpdf.php?number=1881341240>
- 庵功雄（2013）『日本語教育、日本語学の「次の一手」』くろしお出版

ご清聴ありがとうございました